

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	先進的ケア・ネットワーク 開発研究分野
学籍番号		院生氏名	嵯峨井 千佳
通学キャンパス			
論文題目	特別養護老人ホームにおける 虐待の現状と傍観者に関する研究		
審査結果 (枠で囲む)	○合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1</p> <p>1) 本研究は、施設介護において介護職員による高齢者虐待がなぜ発生するのか、周囲の職員はなぜ虐待を止められないのかを検証することを目的とした。特別養護老人ホームに働く 11 人への半構造化インタビュー調査による質的研究を行った。その結果、特別養護老人ホームでは、「虐待が発生しやすい状況」により虐待が起こり、それが「虐待の傍観者」によって見逃されていることが分かった。「虐待の傍観者」には、虐待が起こるのはやむを得ないという「虐待観」と利用者が虐待されるのはやむを得ないという「個別例への虐待観」を虐待者と共有していた。虐待を止められない理由には「施設内の人間関係」が強く影響しており、施設形態による違いとして、従来型では職員同士の人間関係がストレスとなり、ユニット型では人がいないために孤立して閉塞的な環境が、虐待の発生要因に大きく影響していた。</p> <p>2) 研究協力については事前に研究の目的、方法等を説明し、同意を得たうえで調査した。本大学の研究倫理審査委員会の承認を得ている。分析、考察、結論とも適切である。</p> <p>3) 本研究の新規性は「虐待の傍観者」に焦点を当て、なぜ虐待を見逃しているのを分析し、多くの職員が虐待予備軍化している実態を明らかにした点とユニット型では閉鎖的な環境が虐待の発生要因であることを実証したことにある。そのメカニズムの解明はこれまでの先行研究にはなく、新鮮かつ本質を突くものとして高く評価できる。</p> <p>2、 審査会は 2 回開催し、初回審査では「虐待の傍観者」の分析が不十分な上、虐待者との関係も不明なため、論理的な展開を求めた。さらに施設形態の違いによる虐待の発生状況の解析、図表の修正を指示したところ、適切に追加、修正された。</p> <p>3、 口頭試問において適切に応答した。</p> <p>4、 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（介護福祉・ケアマネジメント学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 水巻 中正</p> <p>副 査 井上 善行</p> <p>副 査 東島 弘子</p>		